

## 山上宗二の居所・略歴について

メモ)鉄本 2024.05.15

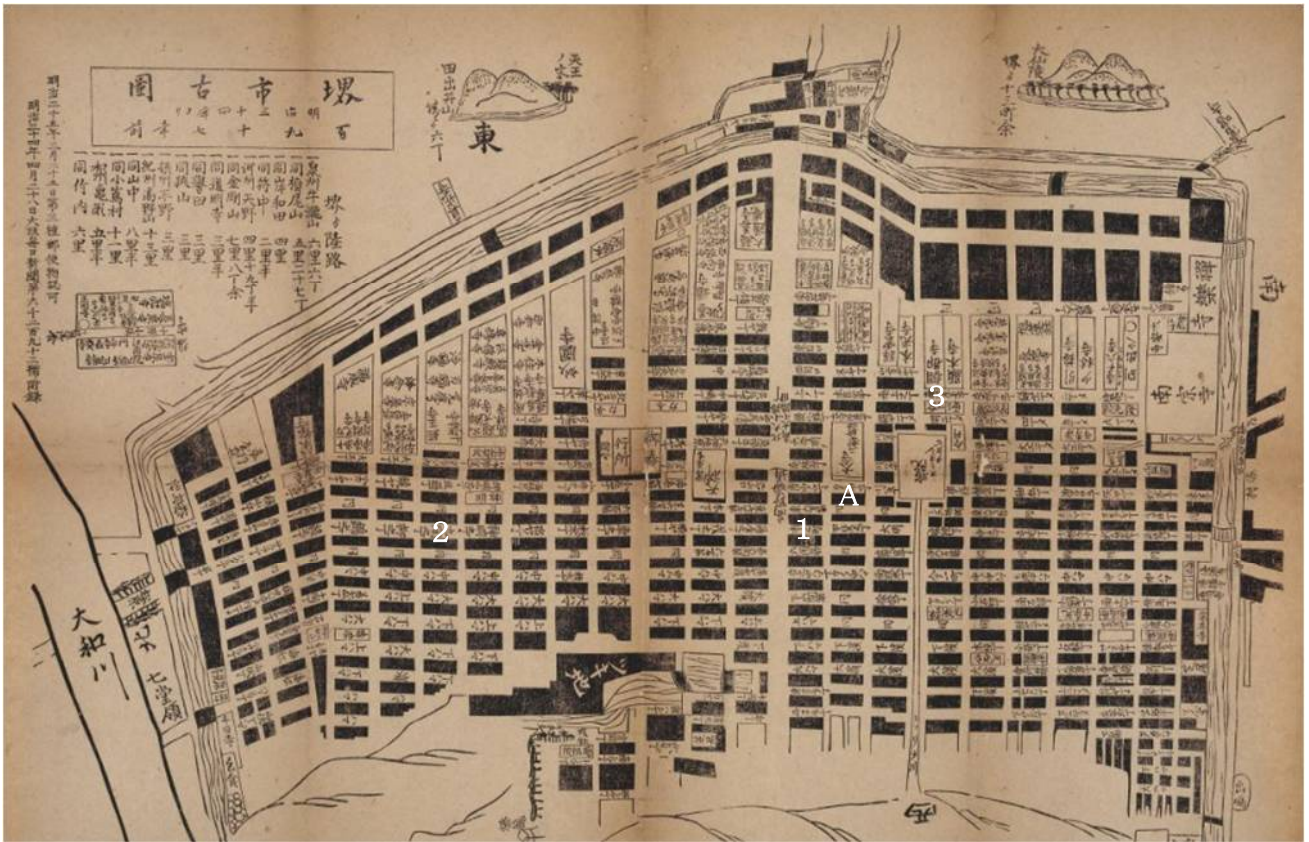
来館者から宗二の居所についての質問があったため調べてみました。想定される居所は3ヶ所あったようです。

### 1. 山上宗二略歴

年号	西暦	年齢	宗二の出来事	日本の出来事
天文4年	1535	—	市小路「藤五郎殿さつまや」「孫五郎殿さつまや」の名前 (『念仏寺築地修理料差文』)	
天文13年	1544	1	堺の薩摩屋一族の一人として誕生	鉄炮伝来(1543)
永禄8年 5月	1565	22	山上宗二が朝会に千宗易、今井宗休らを招く。この頃、千宗易の弟子となる。(一説に永禄3年)	
永禄9年 9月	1566	23	9月10日：堺・甲斐町土倉小路の貸家二階にて茶会を開く。座敷が広がったため屏風で囲って席を作った。ここでは石川宗二の記名がある。 参加者：津田了雲、津田宗及 (『天王寺屋会記』)	(注)津田宗達(宗及の父)の兄弟に、宗閑、了雲、道叱がいた。
永禄9年 10月	1566	23	10月4日：堺・市小路において茶会を開く。 参加者：銭屋宗仲、等允、津田宗及 (『天王寺屋会記』) この後、天正14年(1586)までに宗二主催の茶会が31回開かれている。	(注)この時期、薩摩屋と称していた。後に山ノ上に移住し、山上と称す。
天正元年	1573	30	南宗寺住職の古溪宗陳が大徳寺117世の住持に転ずる際に奉加。(宗易、宗及の名も併記)	室町幕府滅ぶ 浅井・朝倉氏滅ぶ
天正2年	1574	31	織田信長が京都・相国寺に堺衆を招き茶会を開く。 参加者：山上宗二の他、紅屋宗陽、塩屋宗悦、今井宗久、茜屋宗左、松江隆仙、高三隆世、千宗易、油屋常琢、津田宗及の10名	
天正3年	1575	32	座禅と禅問答の会に、宗易、宗及らと共に参禅し、笑嶺宗訴が出した公案に答える。	「長篠の戦」
天正年間			「瓢庵」を名乗る。「瓢」は秀吉の馬印から拝領。	
天正10年	1582	39	禄を失い「牢人」となる。 一説に、「牢人」は偽装で徳川との戦いを前に、前田利家の動向を探るために秀吉が送ったという。(永島福太郎氏、米原正義氏の説)	「本能寺の変」
天正12年	1584	41	金沢に下向し、前田利家から「米千俵分」を拝領。	「小牧・長久手の戦い」
天正14年	1586	43	奈良で豊臣秀長の茶堂をつとめる。	
天正15年	1587	44	高野山に入山。安養院に滞在。 『山上宗二記』の執筆を始める。	北野大茶会
天正16年	1588	45	高野山を下山し、小田原・北条氏に寄寓。 北条氏直の茶堂となる。	
天正18年 4月	1590	47 没	宗二、小田原城を去る。 箱根湯本の早雲寺にて秀吉・宗二の会見 秀吉の怒りにより、宗二が処刑される。	豊臣秀吉小田原城攻め
天正19年	1591		宗二の子、道七の依頼により、大徳寺の古溪宗陳が宗二に別号「瓊林(けいりん)」を贈る。 道七は伊勢屋の養子となり、一度は徳川家康の茶堂となったが、父と同じく短気であった為、牢人となり伊予に下った。	

## 2. 推定される山上宗二の居所

下の地図は元禄17年(1704)の「堺市古図」。 出典:堺市立図書館デジタル



- 地図上の番号: 1=市之町(現在の堺市堺区市之町東1丁付近 堺警察署付近)  
 2=九間町(現在の堺市堺区九間町東1丁付近 錦小学校の西100m付近)  
 3=山上鍛冶屋町(現在の堺市堺区大町東4丁付近 祥雲寺・本光寺の西方向付近)  
 A=甲斐町(宗二が貸家を借りて茶会を開いた場所 現在の甲斐町 開口神社付近)

### (1) 推定居所1 【市小路】の裏付け史料

#### ① 開口神社文書『念仏寺築地修理料差文』(以下、『差文』と略)

山上宗二は「薩摩屋」という屋号をもつ商人だったところから『差文』に書かれている「さつまや」の人物と関係があると考えられる。 \*『差文』は天文4年(1535)の文書

市小路 「藤五郎殿さつまや」  
 「孫五郎殿さつまや」

#### ② 『天王寺屋会記』(以下、『会記』と略)

永禄9年(1566)に宗二による茶会が開かれており、『会記』には、「市小路宗二」とある。(右図参照 『会記』の一部)

「仲」は、銭屋宗仲のこと。「兌」は、「等兌」のこと。「及」は、津田宗及のこと。

同十月四日朝  
 市小路宗二會  
 一 床 れいしやう女給カケ 前ニ細口 シヨクニスヘ  
 一 爐ニ平釜 自在ニ つるべ持出ル 金ノ合子  
 一 ケンサン 三色人 黒臺ニすへ  
 仲 元 及

(2) 推定居所2 【九間町】の裏付け史料

『文禄3年九間町検地帳』(以下、『検地帳』と略)に家主として「宗仁」という人物がみえ、その家作は「あきや」となっている。「宗仁」を「宗二」の誤記(『堺市史第4巻』の茶人伝記系図でも「仁」の文字が使われている)と解釈すると宗二死後4年後の文禄3年頃まで九間町に登記上土地・建物を保有していたことになり、生前は薩摩屋としての店又は居宅があったことが推測できる。

<薩摩屋屋号の人物と記載文書>

- ・薩摩屋宗仁 ← 『数寄者名匠集』及び『文禄3年堺之内九間町御検地御帳(覚応寺文書)』  
(注) 当時の九間町は「御坊之内」3650坪、「御坊の内堀跡」1781坪に大きく分かれる。この御坊とは、文明8年(1476)真宗寺境内に建てられた信証院を継承する北御坊(後の本願寺堺別院)のことで、「御坊之内」は北御坊の寺内町的性格が濃いという。なお、「堀跡」は「御坊之内」を囲繞していたと想定できる。宗仁は「御坊之内」東側に間口約1.5間、面積26.5坪と17.5坪の家屋を保有していた。
- ・薩摩屋宗二 ← 『会記』及び「古溪和尚入寺奉賀帳」  
\*\*\*その他の薩摩屋の人物\*\*\*
- ・薩摩屋宗軒 ← 『天王寺屋会記』(以下、『会記』と略)
- ・薩摩屋宗忻(そうきん) ← 『会記』、『今井宗久茶湯日記抜書』及び『松屋久政茶会記』  
(注) 永禄2年(1559)4月に、奈良の茶人松屋久政が「堺、市小路薩摩屋宗忻(そうきん)」を訪問。  
この宗忻(そうきん)が、『差文』の「藤五郎殿さつまや」か「孫五郎殿さつまや」である可能性。
- ・薩摩屋宗椿(そうちん) ← 『会記』 堺の連歌師で牡丹牡丹花肖柏の門人(『明翰抄』)

(3) 推定居所3 【山上】の裏付け史料

『天王寺屋会記』(以下、『会記』と略)

永禄9年9月10日時点  
本姓「石川」名

永禄9年10月4日時点  
居所は「市小路」

永禄10年12月1日 宗へきの茶会  
永禄11年10月21日 宗二の茶会  
居所が「山上」となり、「山上」と称す。

同九月十日朝 石川宗二會  
一 平釜 風爐ニ小板 水指置所ニ 臺 ケンチン天目 袋ニ入テ  
一 内ヨリ手桶持出 茶筌入茶碗 七ガイ水テ  
越前ヨリ被<sub>レ</sub>來候 かいの町とくら小路かしやにて二階をかこひて之  
茶湯也 釜天目從越前來申候  
了雲 宗及



同十月四日朝 市小路宗二會  
一 床 れいしやう女繪カケ 前ニ細口 シヨクニスヘ  
一 爐ニ平釜 自在ニ つるべ持出ル 金ノ合子  
一 ケンサン 三色入 黒臺ニすへ  
仲元 及



同極月一日朝 山上宗へき會  
一 中へくどを置テ 平がますへ  
茶碗ニツにて茶ヲたてられ候  
宗易 道叱 宗及 新五 宗二

同十月廿七日朝 山上宗二會 及一人  
一 宗仲所持之霰釜ノ開也 四寸ノ爐ニゴトク  
一 茶過テ 床ニ靈生女繪カケテ

(注)「宗へき」は、「宗壁」のこと。  
宗二と同族とされている。

### 3. 「茶会記」などの文書にあらわれる山上宗二と同時代の屋号持堺商人

屋号	名前	生没	事柄	備考
天王寺屋	新次郎	不詳	天王寺屋の初見。文明2年(1475)堺南荘念仏寺近くに居を構えた。	「開口神社文書」 田地売渡状に記載
	津田宗達 (そうたつ)	1504～ 1566	津田宗伯の長男。南宗庵の古岳宗亘から法号宗達、大林宗套より大通の居士号を受けた。天文17年から永禄9年までの『天王寺屋会記』を残した。	名物茶器を30種余り所持。
同上	津田宗閑 (そうかん)	不詳	津田宗伯の次男で、宗及の叔父。津田宗達と兄弟。永禄13年(1570)善通寺玉仲が大徳寺112世に就任する際に200貫文を寄進。信長の矢銭要求への対応策を宗及らと相談。	
同上	津田了雲 (りょううん)	不詳	津田宗伯の三男で、宗及の叔父。信長の矢銭要求への対応策を宗及らと相談。信長に名器を差し出した。	
同上	津田道叱 (どうしつ)	不詳	津田宗伯の四男で、宗及の叔父。博多商人の神屋宗湛と親交があり、天王寺屋商圈の九州方面を担当。	博多商人の大坂進出にも支援
同上	津田宗及 (そうぎゅう)	?～ 1591	津田宗達の嫡子。茶会記にでる名は助五郎、隼人、宗及と改名。大小路に居所を構える。大徳寺156世の江月宗玩は宗及の子。宮中医の半井云也は娘婿。天文8年から天正15年までの『天王寺屋会記』を残した。	永禄12年(1569)、信長の上使衆(柴田勝家・佐久間信盛ら)を饗応)
薩摩屋	宗忻 (そうきん)		弘治2年(1556)4月に、神明町の笠原宗全(別称:侘助宗全)を亭主とした茶会に開相齋、天王寺屋宗達と共に客となっている。 永禄2年(1559)4月に、奈良の茶人松屋久政が「堺、市小路薩摩屋宗忻(そうきん)」を訪問している。	『宗達他会記』 ・肩衝＝侘助肩衝 ・香＝「太子」
同上	宗仁 (そうに)		宗二の誤字か? 『堺市史 第4巻』では、「宗仁」となっている。 『文禄3年九間町検地帳』にみえる。	

#### 【参考文献】

- ・『堺衆 山上宗二』 神津朝夫 龍興山本源院 小野雲峰 一会塚発起人 2007
- ・『山上宗二記入門』 神津朝夫 角川学芸出版 2007
- ・『山上宗二記と茶人宗二』 神津朝夫 宮帯出版社 2022
- ・『茶道史ゆかりの地を歩く』 森 恭彦 淡交社 2019
- ・『16世紀における堺商人の動向 天王寺屋をめぐる』 速水佐恵子 東京女子大学歴史学部会 1964
- ・『天王寺屋茶湯日記』 国会図書館デジタルコレクション
- ・『堺市図書館 館報 I』 「中世堺の町なみについて」 関大)永井規男 堺市博物館)谷直樹 1982
- ・『16世紀における堺商人の商圈・文化圏の拡大』 青柳 勝 国史学会 1987
- ・『堺人 第2号』 堺泉州出版会 2004
- ・『堺市史 第7巻 第一編 人物誌』『堺市史 第4巻 第二編 第六茶道関係資料』

### 【付記】

平成6年(1994)に、堺市堺区の頓宮(住吉大社御旅所)から南東約50m付近の発掘調査場所(堺区宿院町3丁15)から木簡(荷札)が出土された。『堺市文化財調査概要報告 第67冊』(1997 堺市教育委員会)の報告内容を基にまとめた。木簡(荷札)の裏表面には、「栽松軒」と「宗三」の墨書が観察された。墨書はかすれており、「宗二」とも読めなくはないが、赤外線カメラによる観察により「宗三」と特定された。



出土木簡(荷札)

左写真:

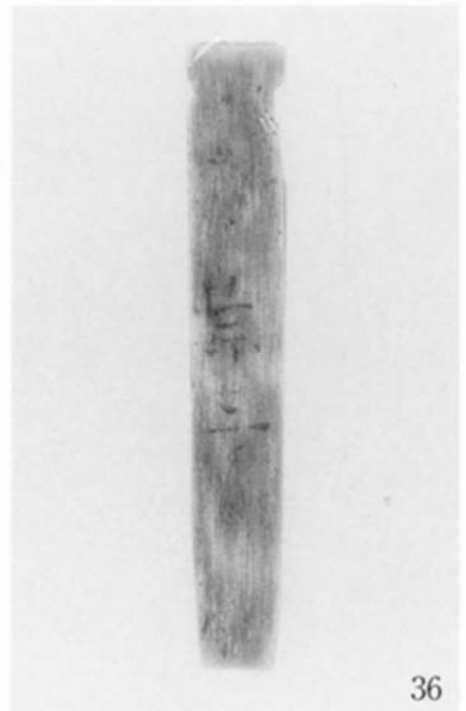
「栽松軒」

(さいしょうけん)の墨書

「栽松軒」とは、大徳寺の僧である大林宗套の居所で、大徳寺塔頭大仙院の西隣にあった。現在は、聚光院になっている。

右写真:

「宗三」の墨書



大林宗套は、南宗寺の

開山の祖であり、堺との関係が深い。「宗三」は、三好政長の法名「半隠軒宗三」のことと思われる。大林宗套は三好氏と関係が深く、これは大徳寺にいる大林宗套が三好政長に宛ててなにかを送った際の荷札と思われる。木簡(荷札)の埋没時期は、周辺から出土した遺物の状況から1541年以降、16世紀中頃までと思われる。

この時期に周辺地域に在住した主な人物は、次の通り。(数字は生没の西暦)

- ①大林宗套:1480～1568
- ②三好政長:1508～1549
- ③武野紹鷗:1502～1555
- ④津田宗達:1504～1566
- ⑤千利休:1522～1591

\* 山上宗二:1544～1590 木簡の埋没時期が1541年以降とすると宗二がこれに出会うことはない。

従って、木簡の文字を「宗二」とする考えは後退することとなる。

【宗三について】 「宗三」は、三好政長の法名で、半隠軒宗三という。三好政長は、三好氏の一族で、三好長慶の父である元長としばしば対立した。享禄4年(1531)、阿波国人衆(元長側)と摂津国人衆(細川晴元、政長側)の戦いで、元長を顕本寺での自害に追いやる。その後、三好長慶の決起による「江口の戦い」(天文18年 1549)で、政長は討死する。政長の菩提所は善長寺(堺区神明町東3)にある。